

中国・深圳で「ISLE2025」開催 最先端のディスプレイ技術が集結

業界トップ企業が未来の製品を披露

3月24日号既報のとおり、3月7～9日に中国・深圳（シンセン）世界展覽コンベンションセンターで開催された「ISLE2025（International Smart Display and Integrated System Exhibition）」では、世界中のLEDディスプレイ業界のトップ企業が一堂に会し、省エネルギー技術、AIとの融合、次世代超高精細ディスプレイの進化など、最新技術の成果を発表した。今年で10回目を迎えたISLEでは、商業、エンターテインメント、教育、スマートシティ、スポーツ施設など多岐にわたる分野に対応するディスプレイ技術がそろい、LED業界の未来を示す重要なイベントとなった。ここでは、展示会で注目を浴びた主要企業の革新的技術と最新動向について報告する。

（大久保洋／近畿エデュケーションセンター 事業推進室技術顧問）

LEDディスプレイ技術のAI（オールインワン）製品は、日本の市場でも広く使用される機会が増えていくと予想される。

◆◆◆

【Leyard】エネルギー効率とインタラクティブ体験の新时代へ

ディスプレイ技術の世界的リーダーであるLeyardは、7つの最新製品を発表。特に注目されたのは、省エネ技術を活用した「MG COB（Micro Glass COB）」で、動作温度30度で安定稼働し、業界のエネルギー消費問題を解決する画期的な技術として評価された。さらに、「MOKシリーズ」は屋外広告用に最適化され、「LNシリーズ」は柔軟なスワイプシグナルLEDディスプレイを設計により、イベントやレンタル市場に向けた没入型ディスプレイを提供した。

【Unilumin】「光学ディスプレイ+AI」で革新をリード

Unilumin（ユニルミン）は、AIとの統合を強化し、「スクリーン型ロボット」や、デジタルヒューマンイメージと融合したAI音声インタラクティブ技術を発表。ユニルミンは、シネマ用LEDディスプレイを展示、今後のシネマスクリーンへのLED化を推進していくとみられる。既に中国の三亜、ウルムチ、南京、米国のロサンゼルス、ロシアのモスクワなど国内外の都市の劇場に導入されている。

【Absen】低炭素／高効率ディスプレイ技術

Absenは、省エネと高性能を両立させた「A25シリーズ」を発表し、「Golden Display Award」を受賞。さらに、パトリック・ピックプロジェクトでの採用が評価され、「Application Design Award」も受賞した。

【Ledman Optoelectronic】世界初の0.9mmピッチマイクロLED MIPディスプレイ

Ledmanは、0.9mmピッチの「マイクロLED MIPディスプレイ」を披露し、超高精細MLEDディスプレイの制御精度を高める新技術を発表した。

◆◆◆

ISLE2025では、スマートシティなど、さまざまな分野に拡大しつつ最前線を示す場となった。



メインエントランスは、ISLE開催10回目を記念した装飾が施された



LeyardのCOB型オールインワンLED製品



ユニルミンのシネマ用LEDディスプレイ



Absenのレンタル用LEDディスプレイ



Ledmanの0.9mmピッチのマイクロLED MIPディスプレイ



ColorlightのMLEDキャリブレーションカメラシステム

ホークアイの技術を活用

ソニー スポーツ界に広く提供

ソニーは、グループ会社であるホークアイの技術と、スポーツ界に広く提供している。

◆NPBのデータ活用拡充を支援

日本野球機構（NPB）のプロ野球全12球団には、ホークアイのトラッキングシステムを導入。ソニーはプレイデータをより広く活用できるよう、NPBエンタープライズ向けに「コンテンツ・マネ

ジメント・システム（CMS）を新たに開発し、併せて「データ・マネジメント・プラットフォーム（DMP）」もNPBとの協力のもと整備。データの一元管理やCMSへのデータ提供、コンテンツ化を可能にする。CMSは投手の球速やボールの軌道、回転数、打者の打球速度、打球角度、スイング速度などのデータをリアルタイムで可視化し生成する。

選手の骨格情報やボールの動きをとらえるホークアイの光学トラッキングシステムにより、球場に設置した複数台のカメラの映像から高品質なコンテンツが制作される。これが球場ビジョンで放映されたりSNSで発信されたりすることで、プロ野球の新たな楽しみ方が生まれるという。

◆米NFLは測定技術を採用

米NFL（National Football League）は、ホークアイのバーチャル測定技術を用いて、25年シーズンから使用。ライン・トゥ・ゲインは、攻撃開始地点から次のファーストダウンを獲得するために必要な10ヤード先の地点。ここに到達したかを正確かつ迅速に測定することで、審判判定の精度を高める。ホークアイのシステムは、全30のNFLスタジアムとNFLの試合を開始し、従来の最大40秒短縮できるという。

採用

米NFL（National Football League）は、ホークアイのバーチャル測定技術を用いて、25年シーズンから使用。ライン・トゥ・ゲインは、攻撃開始地点から次のファーストダウンを獲得するために必要な10ヤード先の地点。ここに到達したかを正確かつ迅速に測定することで、審判判定の精度を高める。ホークアイのシステムは、全30のNFLスタジアムとNFLの試合を開始し、従来の最大40秒短縮できるという。

ボール位置をトラッキングするため6台の8Kカメラが設置される。システムは、ニューヨークのNFLアート・マクナリー・ゲーム・センターラル・オフィシエ・インテリジェンス・センター（AMGC）から運用され、リーグの既存のリプレイシステムと統合される。フィールド上の審判に測定結果が通知されると、スタジアム内および放送においてリアルタイムでバーチャルに再現する。測定は約30秒で完了し、従来の最大40秒短縮できるという。

ルプロダクション、透明ディスプレイなど、業界全体が持続可能で、全体が次の世代へ進化していることが明らかとなった。また、ディスプレイの制御精度を高める新技術を発表した。

ISLE2025では、スマートシティなど、さまざまな分野に拡大しつつ最前線を示す場となった。

ISLE2025では、スマートシティなど、さまざまな分野に拡大しつつ最前線を示す場となった。